



○ ことば

朝日新聞に掲載されたかつての「折々のことば」がこの22日に再掲されていました。

私はこの連載されている記事をとときどき紹介して自分が受け止めたことを記述しています。感じ方は人それぞれ微妙に違うと思いますので、読まれた人が感じたことの邪魔をしないように努めています。と、前置きをして記述してみます。

親と子どもの関係性は子どもが小さいときほど容赦のないものですね。それが成長して成人になる頃に対等に近い関係になっていきます。親が年老いていくと逆転することになるでしょう。年月の流れは止まることなく容赦はありませんね。

「身のほどを知るせつなさ」は私も明確に思い出すことができます。「そしてそのせつなさが本物の『ごちそう』を用意するのだ」ということにも同感できます。幼い時から身のほどを知らずに何でも与えられてしまうと、ごちそうをごちそうと感じなくなってしまいます。それはうれしいと思うことや感動できる喜びを知らないことになりまので、つまらない人生を送るようになってしまいます。

社会に出る前の学生たちは法的には成人になっていますが、「容赦のないものの力」と「身のほどを知るせつなさ」を感じる場面がまだ少しあると思います。でも、あった方が本物の「ごちそう」が用意されますよ。

○ 自校自賛

YC校のOCでは新山口駅前の「二度寝の長州」から講師の先生に来ていただき、カツサンドを学びました。OCであるとともに製菓衛生師科の授業でもありますので、この日は全員がかかりました。今までOCを手伝った学生の似顔絵を描いてきた私は大急ぎでみんなの顔を観察して仕上げました。カツサンドはボリューム満点、食パンの柔らかさとともに美味しくいただきました。

